

ぺんてる

コーポレートレポート



目次

- 1 ペンてるグループの概要
- 3 トップメッセージ
- 5 ペンてるグループの原点

ハイライト

- 6 QUALITY VISION
- 7 QUALITY IN HANDWRITING
- 9 QUALITY IN SUSTAINABILITY
- 11 QUALITY IN SERVICE

社会

- 13 お客様の安心のために
- 14 お客様の笑顔のために
- 15 パートナー、社員とともに
- 17 誠実、健全であるために
- 19 地域、社会とともに
- 21 次世代のために

環境

- 23 環境保全への取り組み
- 29 ペンてるのあゆみ

編集方針

当社は、2005年から「環境社会報告書」を発行してきました。2009年からは、会社案内と一体化し、「コーポレートレポート」と改め、より幅広いステークホルダーの皆様の関心に応えることを目的としています。

環境関連データは原則として2011年度までの情報を収集期間としていますが、活動内容には一部2011年度以降についても記載しています。

ペンてるグループの概要

当社は、くれよん、えのぐなど学用文具の製造・販売からスタートし、高い技術力と独創的な発想から、多くの筆記具を生み出してきた文具事務用品の総合メーカーです。さらに事業分野は、電子機器や産業用ロボット、産業用自動組立機の製造販売、化粧品容器をはじめとしたOEM関連製品の製造販売まで広がっています。

会社概要

社名：ペンてる株式会社 PENTEL CO.,LTD.

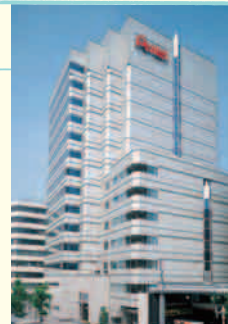
本社：〒103-8538
東京都中央区日本橋小網町7番2号
TEL.03-3667-3333 (代表)

創立：1946年(昭和21年)3月

資本金：450百万円

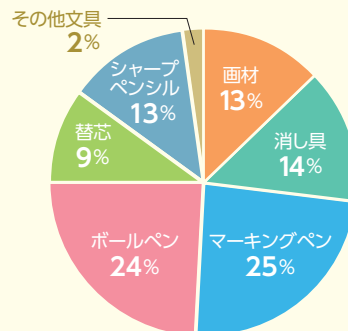
社員数：773人 (2011年度・単体)

売上高：34,327百万円 (2011年度・連結) 【国内40% 海外60%】
23,326百万円 (2011年度・単体)



(2012年3月31日現在)

■ 文具事業内訳比率 (2011年度・単体)



文具を基点にさまざまな事業を展開 事業概要

文具事務用品

現在当社では、画材・消し具・マーキングペン・ボールペン・シェープペンシル・替芯といった文具事務用品を製造・販売しています。“世の中にないものを開発し、新たな需要と市場を創造する”という信念のもと、世界で初めてのノック式シャープ「ペンてる鉛筆」や爆発的人気を呼んだ「ペンてるサインペン」、人工毛を使用した毛筆「ペンてる筆」など、多くの新製品を世に送り出してきました。今後も創業時より一貫した冒険心、アイデア精神を受け継ぎ、お客様に愛される製品を提供していきます。



世界 21 の販売拠点で 120 カ国以上の販売網を構築
グローバルネットワーク

● 販売会社 ● 海外工場 (2012年3月31日現在)



電子機器事業部

静電容量方式のタッチパネル・ペンタブレット・タッチスイッチや手書き内容がそのままデジタルデータになるデジタルペンなど、時代を先取るヒューマンインターフェイスを提供しています。

フラットプラス+
 -Surface Capacitive Touch Panel-



<http://www.e-pentel.jp/>

OEM 事業部

お客様のブランドや仕様に合わせ、化粧品容器・医療機器などの部品・製品の製造販売を行っています。お客様のブランドづくりをペンてるの技術でサポートします。

化粧品容器



化粧筆

<http://www.oem.pentel.co.jp/>

機設事業部

自社製品の生産ライン構築実績をもとに、現在までに自動車・医療・日用品など他業種向けに、自動機械・金型を2,000セット以上販売しています。これからも先端技術や最新技術に取組み、さらなる発展を目指します。



完成品

医療用針インサート成形システム

<http://machine.pentel.co.jp/>

社内の活力を生むことで成長軌道へ

—— 2012年5月の社長就任後、社内に「原点回帰」というメッセージを発信されました。ぺんてるにとっての「原点」とは？

当社の原点は、社訓にすべて示されていると思っています。とても味わい深い言葉が並んでいますが、最初の5つに会社としてどうあるべきか、そして最後の6つ目にぺんてるの社員はどうあるべきかが、やさしい気持ちを込めつつ書かれています（詳細はP.5）。

お客様や株主の皆様、お取引先など、それぞれのステークホルダーのご期待に応えるべきなのは当然ですが、私はまず、社員のための会社を目指したいと考えています。良い製品を作り、会社を成長させていくためには、社員一人ひとりの力の結集が必要です。社内の活気と活力を高める施策を実行し、皆様のご期待に応える成果につなげていきます。

製品で、そして企業として 期待に応えるぺんてるであるために 再び「原点」に立ち戻ります。



—— ペんてるの経営方針について教えてください。

第一に取り組むべき課題は業績の向上です。そのために「グループ経営の重視」「スピード経営への転換」「チャレンジ精神の再生」の3点を経営課題ととらえています。

ぺんてるは現在、海外に21の販社と7ヵ所の生産拠点を現地法人として展開しています。これまでは各社の自主性を尊重する傾向が強かったのですが、グローバル化が進んだ今、海外法人を含めたグループ経営の強化なくして成長はあり得ません。円高の進行もあり、生産品目の海外移管を積極的に行っていくことでグループの全体最適を実現し、成長軌道にいち早く乗せたいと考えています。

経営のスピードアップについては、それぞれの会議体における意思決定の迅速化とともに、会議自体の効率化を進めます。私自身が外に出て、現場の状況を直接把握し、意思決定のスピードアップにつなげます。そして、お客様やお取引先からも強く期待されている世の中をあっという間に驚かせる新製品を出したいと考えています。

チャレンジ精神の再生は、ぺんてるらしさを取り戻すためにも非常に重要な課題であり、まずは品質への徹底したこだわりで挑戦します。そのために、社長主催の品質会議を新たに設けました。また、技術開発の強化にも力を注ぎます。新たな“技術”の開発は思いもかけない新製品につながるものですが、当社はしばらく“製品”自体に目を向けすぎませんでした。もう一度、基礎技術に力を注ぐことで、ぺんてるらしい画期的な新製品をお届けしたいと考えています。

あらゆるステークホルダーのために

—— 2012年7月には新たな中期経営計画も発表していません。この中期計画のポイントを教えてください。

すでに進めているパワーブランド戦略を一層強化し、「エナージェル」「ビクーニャ」「シュタイン」など競争力のある製品の拡販に注力することで、これら製品群の売上を2011年度の40億円から2014年度には60億円へ拡大する計画です。

さらに海外生産の拡大も進め、海外での生産高・生産比率を2011年度の24%から、2014年度には30%に拡大したいと考えています。海外進出の早かった当社では、アメリカ、台湾、パリの各工場は稼働開始から30年を超え、その歴史の中で、ぺんてるの品質が完全に根づいてきました。中国やインドなど比較的新しい工場についても、国内工場はもちろん、先行する海外工場からも積極的な支援を送り、世界のどこで、どの製品を作っても、ぺんてるの品質を保つことができる、グローバルな生産体制を構築したいと考えています。

—— 環境への対応についてはどのような取り組みを行っているのでしょうか。

国内3工場および海外では台湾工場においてISO14001を取得しており、基本的にはこの仕組みの中で環境負荷を低減する活動を進めています。同時に、製品自体の環境負荷を抑えることも重視し、リサイクル性の向上や、廃棄する際の分別のしやすさなどを考慮した設計に取り組んでいます。

小さなものとはいえ、筆記具は日常生活の中で数多く消費される製品です。金属やプラスチックが複雑に組み合わされているものも多く、環境を考えた製品設計はこれからも前向きに取り組むべき課題だと認識しています。

—— 最後に、各ステークホルダーに対してどのような企業でありたいと考えているのかをお聞かせください。

透明性の高い経営やコンプライアンスの遵守、リスクマネジメントの強化など、企業が果たすべきことは徹底しなければなりません。そのうえでお客様に対しては、安心してお使いいただける品質を維持するとともに、これまでなかった便利さや楽しさを提供する企業でありたいと考えています。株主・投資家の皆様が最も望むのは安定的な経営と業績の向上であり、中期経営計画を確実に達成することで、ご期待に応えてまいります。お取引先の皆様に対しては、成熟した市場を活性化させる企業になることで、ご期待に応えたいと考えています。そして社員の皆さんには、意欲があれば仕事を任せられる、やり甲斐に満ちた会社にする。権限を委ねられれば、責任も負わなければなりません。しかしそれが仕事に対する意欲や達成感を高め、次代を担う人材を育てることにつながると私自身の経験からも確信しています。



ぺんてる株式会社
代表取締役社長

和田 優

ぺんてるグループの原点

当社は、会社のあり方や進むべき道、社員の心構えなど、会社の基本となる考え方や方針を表す「社訓」を1962年に制定しました。また、2005年には、社員一人ひとりが遵守すべき行動規範として「企業行動指針」を策定し、企業活動に組み入れています。「社訓」は当社の企業活動の原点であり、今でも大切な財産であると考えています。それは、現在のCSR活動における基盤にもなっています。これからも、お客様に喜んでいただける製品づくりを通して、社会と共に発展することを使命に、持続的な成長を目指していきます。

社訓

愛される製品づくりと環境に配慮した誠実で健全な企業運営に努めることで

「社業を通じて国家・社会への貢献」 を実践します。

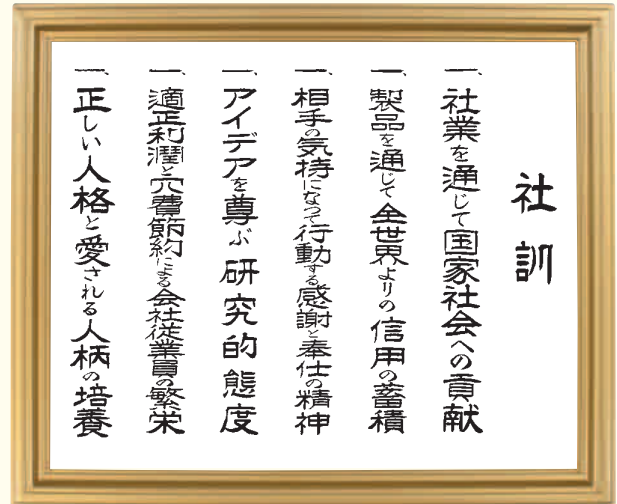
「優れた品質の製品であれば国境や人種に関係なく世界中のお客様にお使いいただける、との信念のもとに**「製品を通じて全世界よりの信用の蓄積」**を目指します。

「相手の気持になって行動する感謝と奉仕の精神」を常に忘れずに、友愛にあふれる明るい企業文化の構築に取り組みます。

ひとつの小さなアイデアが、日々の生活に楽しさや快適さを与え、世界中の人たちの利便性を向上させます。**「アイデアを尊ぶ研究的態度」**を持って、研鑽を重ねます。

社員、関係企業、取引先の皆様の協力があって初めて企業としての発展を望めます。**「適正利潤と冗費節約による会社・従業員の繁栄」**を掲げ、社員やビジネスパートナーの皆様との信頼関係を築きます。

社員一人ひとりが、**「正しい人格と愛される人柄の培養」**を胸に、地域や社会、次世代のために主体的に行動します。



企業行動指針

近年、企業に求められる倫理基準はかつてないほど高く厳しいものとなっており、企業が継続するためには、社会から信頼されることがなによりも重要です。

一方、企業の持続的な成長は、突き詰めると社員一人ひとりの行動の積み重ねであり、全てのぺんてる社員が、職業倫理や遵法精神を守り、行動することが求められます。

これらの視点より、社訓に基づく「企業行動指針」を定め、全社員への徹底を図っています。

- 広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を公正に開示します。
- 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の条件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 品質、環境、安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して社会的に有用な製品を開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を高めていきます。
- 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
- 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行うこと。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。

未来に向けて、品質にかける思いを具現化

ぺんてるのクオリティ・ビジョン

- ◆ ペんてるグループの全社員が当社のグループ経営を行っていくうえで共有すべき当社の企業姿勢（ビジョン）です。
- ◆ PENTEL QUALITY VISIONは、既定の当社の「社訓」や「企業行動指針」の考え方をベースとし、グローバルぺんてるグループで「考え方」を共有するために作成されたものです。
- ◆ 「社訓」や「企業行動指針」が、普遍的なものの考え方をベースとしているのに対しPENTEL QUALITY VISIONは、時代背景や社会ニーズの変化にある程度合わせながら、その時代に相応しい当社としての企業姿勢（ビジョン）を表します。

EMBRACE THE FUTURE.

イノベティブな「書き味」品質

- 世界でただひとつのイノベティブな書き味を。
- 世界でもっとも美しい筆跡を生み出す性能を。
- すべての人の手になじむ快適な使い心地を。



未来を想う「地球」品質

- 環境負荷の少ない商品「リサイコロジー」を通して地球温暖化防止への取り組みを。
- 製品のひとつひとつに安全性を配慮したものづくりを。
- 子どもたちに「手で書く・描く」ことの喜びを、そして地域社会にも貢献できる活動を。

こころを満たす「サービス」品質

- 世界の人々に安心と信頼をお届けできるサービスを。
- ペんてるで働くひとりひとりがサービスの質に高い意識を。
- いつもお客様とこころが通うコミュニケーションを。

PENTEL QUALITY VISION

未来をやさしく包みこむ、ものづくりをめざして。

ペンを使う人がもっと快適に、もっと自由になれるように。

そしてすべての人にやさしい世界になるように。

ぺんてるの「ものづくり」の手は、いつも少し先の未来に向かって伸びています。

“水性のようななめらかさ”をゼロから開発。 未体験の書き心地を実現した「ビクーニャ」

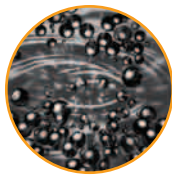
油性ボールペン「ビクーニャ」が発売されたのは2010年。まだ若いブランドではありますが、これからのペンてるの新定番として期待されているパワーブランドです。

その理由は、「ビクーニャ」の製品コンセプトにあります。“従来の油性ボールペンとは、次元の違う製品を創り出す”というコンセプトのもと、ゼロから開発が進められました。目を付けたのは、“水性のようになめらかな油性インク”の開発。これまで培ってきた技術を結集し、膨大な時間に及ぶ実験が繰り返されました。その結果、超低粘度で水性ボールペンのようにサラサラとした書き味をもつ「ビクーニャ」が誕生したのです。

超低粘度
インク



安定した
インク濃度



(イメージ)

濃く艶があり
鮮やか



独自の先端技術を結集したビクーニャ・インク

「ビクーニャ」の未体験は、なめらかさだけではなく。通常、インクの粘度が低くなれば、発色の濃さや鮮やかさを維持することが難しくなりますが、顔料を高次元で分散させる新技術や新着色剤を導入することで、濃く艶のある鮮やかな色合

いを実現しています。また、書き始めのカスレがほとんどないのは、ペン先のボールの回転をよりスムーズにし、紙との筆記抵抗値を低減する新潤滑剤によるものです。

ペンてるの技術と想いが込められた「ビクーニャ」。そのイノベーティブな書き味を世界中のお客様にお届けするために、今後も研究と改良を重ねていきます。

インク開発には、溶剤や潤滑剤の選定、インク粘度の設定を非常に高いレベルで組み合わせることが求められる

VICUÑA

SNSサイトでのお客様の「ビクーニャ」に対する“つぶやき”をご紹介します

VICUNA、すごく使いやすい。ペンのストレスを、ごっそり軽減した感じ。



「ほんとに書けてる？」
ってぐらい軽い。

半信半疑だったけど、
使い始めたら
他のには戻れないかも？
ってくらいハマる書き味。



QUALITY IN SUSTAINABILITY

未来を想う“地球”品質を目指します

ものづくり企業として持続可能な社会に貢献するために、製品を通じた環境負荷削減に取り組んでいます。3Rを基本に、お客様やお取引先様にも環境に配慮した取り組みが広がるような製品開発を推進していきます。

リサイクル

人と地球にやさしい製品を拡大

環境問題に積極的に取り組むという企業方針のもと、より多くの廃棄素材を有効に再利用するため、部品ごとにさまざまな再生材を活用しています。製品の特質上、また安全性を確保するために、エコマークの認定基準をどうしても満たせない製品についても、可能な限り再生材の利用を推進しています。

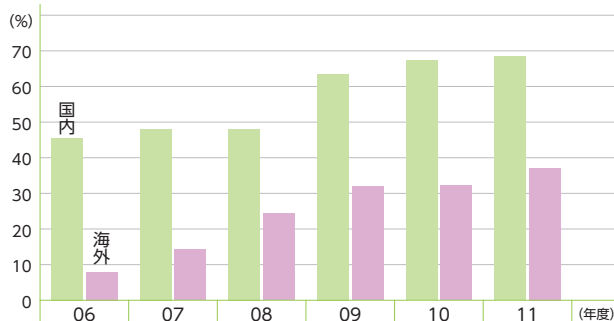
そのような再生材を活用した製品に対し、独自に「リサイコロジーマーク」を制定し、2006年から全世界のペンてるの共通マークとして使用しています。



総売上に対するリサイコロジー製品売上比率は年々増加しており、今後は海外向け製品のリサイコロジー化にも積極的に取り組んでいきます。

リサイコロジーマーク製品比率

(国内・海外売上それぞれに対するリサイコロジーマーク製品売上)



詳しくはホームページのPentel リサイコロジー製品一覧をご覧ください。

<http://pentel.imagestore.jp/eco/>

※再生材使用率はエコマーク基準に基づいて算出
※データは2011年12月現在



リサイコロジー製品

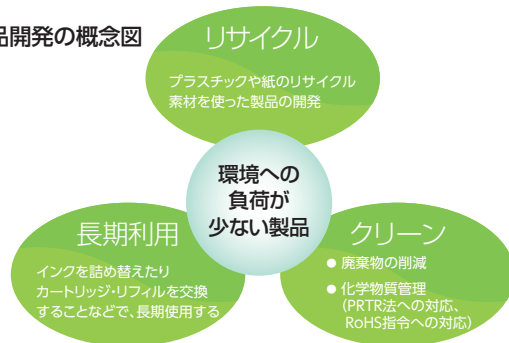


継続的な活動を通じて 循環型社会形成に貢献

ぺんてるは、持続可能な社会のために環境に配慮した製品開発を行っています。

プラスチックや紙の再生材を使用することはもちろん、インクの詰め替えやカートリッジ・リフィルを交換することで、ゴミの減量化、環境への負荷を低減できる長寿命製品を増やします。また、廃棄物の削減と化学物質管理のため、重金属や環境影響化学物質を削減し、包装材料には環境ホルモン成分（フタレート系）を含まない材料に変更を進めています。

製品開発の概念図

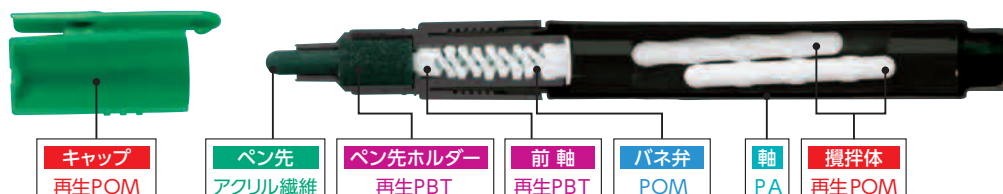


クリーン

リデュースで環境への負荷を低減

自動車部品などのマーキングに使われているペイントマーカーは、従来、本体にアルミ、インク、攪拌体^{かくはんたい}に鋼鉄ボール、そのほかに樹脂の複合素材を使用していました。そのため、廃棄物の分別を行う企業では、素材ごとに分解する作業を効率化する必要がありました。そこでぺんてるは、金属部品を使わず、プラスチックゴミとしてそのまま廃棄できる「樹脂

部品だけのペイントマーカー」を開発しました。開発にあたっては、「認定基準をクリアする」、「RoHS 指令^{*1}の基準をクリアしたインクを使用する」、「インクに含まれる有機溶剤による劣化を防ぐ」という3つの課題に取り組み、「有機溶剤に劣化しない材料は金属だけ」という常識を打ち破りました。



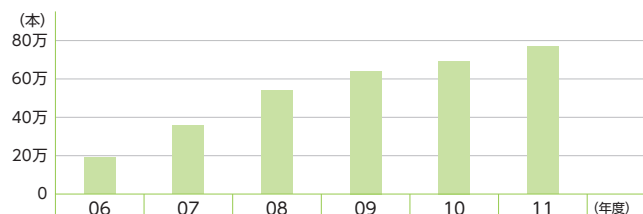
長期利用

リユースで環境にやさしい製品の拡大

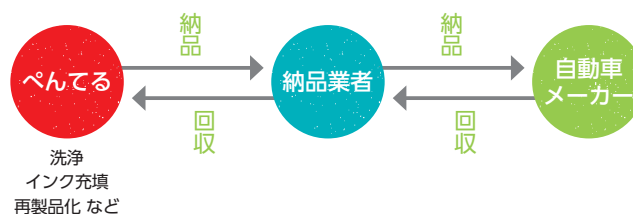
リフィル（ボールペンの詰め替え芯）に対応した製品開発やリフィル使用の促進によって、廃棄物削減を図っています。また、分別不要の製品を開発するだけでなく、使い終え

てインクのなくなったペン本体を回収し、再度インクを補充して再利用する取り組みを自動車メーカーと共同で実施しています。

リフィル販売量の推移（エナージェル）



ペイントマーカーの再製品化の流れ



※1 RoHS 指令

電子・電気機器における特定有害物質（鉛、水銀など6物質）の使用制限についての欧州連合（EU）による指令です。

※2 GPN（グリーン購入ネットワーク）

グリーン購入の取り組みを促進するために1996年2月に設立された企業・行政・消費者の緩やかなネットワークで、環境に配慮した製品のデータベース（エコ製品ねっと）を公開しています。

※3 グリーン購入法

国などの公的機関、事業者、消費者のそれぞれが、環境物品などを調達（購入）することにより、「環境にやさしい」いわゆる「環境保全型社会」を作することを目的とした法律です。

QUALITY IN SERVICE

製品・サービスづくりを支える 多様なコミュニケーション

お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の声は、よりよい製品・サービスづくりに不可欠です。多様なツールを効果的に活用し、双方向のコミュニケーションを築くことを心がけています。

より深いコミュニケーションの構築と タイムリーな情報開示を実現するために

お買い上げいただいた製品をよりよく使っていただくために、また、ぺんてるという企業をより深く理解していただくために、さまざまなメディアやツールを活用しています。

特にWEBの活用によって、よりタイムリーな情報開示やステークホルダーの皆様とのコミュニケーション、冊子の電子化による紙資源の節減などが可能になります。

デジタルコミュニケーション

WEBの特性を活かしたコミュニケーション

コーポレートサイトは、会社案内や製品の紹介はもちろんのこと、CSR情報やお客様相談室など、さまざまな企業情報を発信する役割を担います。

WEBサイトの即時性を活かした新製品情報やニュースリリースの発行、動画の活用などWEBならではの機能を活かしたバラエティ豊かなコンテンツを揃えました。

また、自社サイト内のWEBコンテンツやメールマガジンのほか、FacebookやTwitterなどのSNSなども幅広く活用しながら、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの接点を増やしています。



Facebookファンページ



メルマガ PENTEL TIMES
(ユーザー様向け)



メルマガ PENTEL NEWS
(販売店様向け)



コーポレートサイト



column

ベストサプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞

ポーランドペンてるは、オフィスサプライ業界でグローバルに事業を展開するリレコ社（本社：フランス）から



受賞式の様子（右から3番目がペンてる現地スタッフ）

2010年度の「サプライヤー・オブ・ザ・イヤー賞」を受賞しました。

同賞は、世界中のサプライヤーを対象に、「革新的な技術開発」「優れた品質」「卓越した新製品発売時のサポート」「企業のトータルコスト競争力」の視点で総合的に、年間で最も優れた企業を表彰するものです。



受賞トロフィー

リアルコミュニケーション

デジタルと連動し、
コミュニケーションをより深く



キャラバンカーは2台を用意し、一方は大阪から、もう一方は長崎から出発。各地でdemo販売を行ない、全国を横断



お客様やお取引先様と直接顔を合わせる店頭でのコミュニケーションも、製品・サービスの改善のために非常に重要です。

2010年の「ビクーニャ」のキャンペーンイベント、「ビクーニャ・キャラバン」では、オリジナルデザインのキャラバンカーで全国を巡り、demo販売を行いました。キャラバンカーの出店先はTwitterでリアルタイムに告知されました。デジタルとリアルそれぞれのよい点を連動させ、より深いコミュニケーションのかたちを追求しています。

コンテンツ

情報ツールの進化に対応した
ユニークなコンテンツ

携帯電話やタブレット型情報端末など情報ツールの進化に対応した情報発信やコンテンツの提供が求められています。

デジタルカタログのほか、ビクーニャの開発ストーリーをライトノベル化した「ビビビ・ビクーニャ！」や社史「円かなる英魂」などの電子書籍では、ペンてるという企業を異なる視点で見ただけのユニークなコンテンツをWEB

限定で配信しています。



▼社史

▼ギフト&ノベルティカタログ

▲ライトノベル

▲総合カタログ

さまざまな端末での閲覧に対応

お客様の安心のために

製品を通じて 全世界よりの信用の蓄積

世界中のお客様に、安心して、
永く愛用される最高品質の製
品づくりを目指し、品質活動を
行っています。

安心で信頼できる 製品を作り続けます



品質保証体制

当社は、「優れた品質の製品であれば国境や人種に関係なく世界中のお客様にお使いいただける」との信念のもと、絶えず世界最高品質の製品を目指して品質保証活動を行っています。この活動の根幹であり、支えているのが、ぺんてるの総合的品質管理（TQM：Total Quality Management）活動です。創業以来、品質管理を経営の柱として活動し、1976年には文具業界で初めてデミング賞*1を受賞しました。その後もTQM活動を推進し、国内、海外の工場においてISO9001*2認証を取得しています。

ISO9001認証取得状況

1995年	茨城工場 吉川工場
1998年	電子機器事業部 機設事業部
1999年	台湾 台北工場
2000年	フランス パリ工場 ぺんてるケミカル(株)
2003年	中国 天津工場
2007年	インド工場
2009年	メキシコ工場

開発段階で、徹底した各規制物質使用の確認を実施し、JIS規格はもとより、ISO8124*5 やRoHS指令に準拠した社内基準で品質設計を行っています。特に製品に含有される重金属に関しては、企画・開発段階はもちろんのこと、発売後も中央研究所でICP発光分光分析や蛍光X線分析などにより確認を行っています。

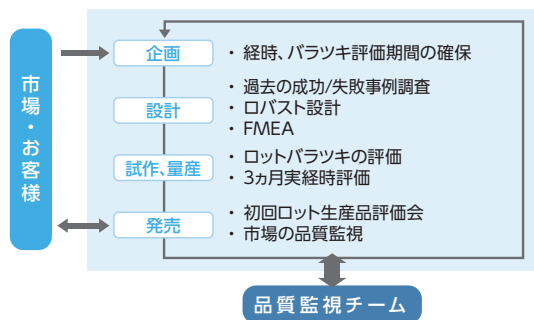
お客様相談室

当社では、「お客様相談室」を設置し、お客様からの質問に対し、きめ細やかに対応することを目指しています。お問い合わせは、製品の使い方から製造に関する質問までさまざまですが、その中でも、汚れの落とし方やリフィルの交換といったお問い合わせの頻度が高いものについては、ホームページに掲載し、必要な時に必要な情報をご覧いただけるよう対応しています。

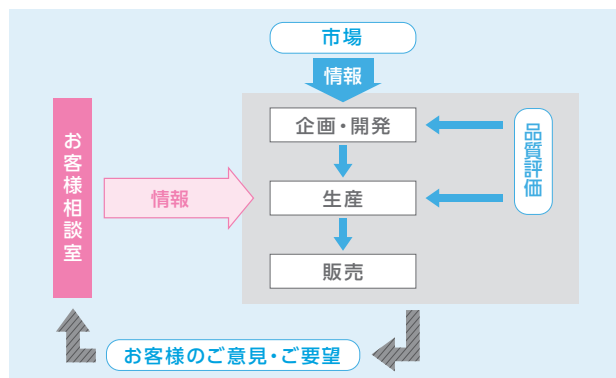
化学物質規制への取り組み

近年、RoHS*3指令やREACH規制*4など、製品に使われる化学物質に関する規制が強化されています。当社では企画・

品質管理体制



お客様相談室の体制図



WEB <http://www.pentel.co.jp/support/>

*1 デミング賞

戦後の日本に統計的品質管理を普及させ、日本製品の品質を世界最高水準に押し上げる大きな礎となった故デミング博



士の業績を記念して、1951年に創設された総合的品質管理に関する世界最高ランクの賞です。

*2 ISO9001

品質管理および品質保証のためのISO（国際標準化機構）規格として1987年に制定されました。

*3 RoHS指令

電子・電気機器における特定有害物質（鉛、水銀など6物質）の使用制限についての欧州連合（EU）による指令です。

お客様の笑顔のために

アイデアを尊ぶ 研究的態度



お客様の声を大切に、日々たゆむことなく研究活動を積み重ね、これまでになかった便利さや楽しさを提供したいと考えています。

お客様の笑顔のため、 日々研鑽を重ねます

お客様の声から

国内では、販売店様やお客様相談室を通して、毎日さまざまなご意見やご要望をいただいています。また、世界21カ所の販売拠点を介して、地域や国ごとの規制や使い方の特徴など、現地ならではの情報も寄せられます。これらのご意見やご要望は、当社にとって何より貴重な財産であると考えており、迅速に経営トップへ伝えるとともに、関係部署での共有を図り、絶え間ない品質改善や新製品の開発に結び付けています。

ポリシー表記の変更（国内）

店頭ディスプレイに入れた際に、「ボール径表示が隠れて見えない」という販売店様やお客様の声をもとに、ボール径表示を右上の見やすい位置にも追加しました。今後も、より分かりやすい表示を検討していきます。



法規制への素早い対応（海外）

台湾ぺんてるでは、日頃からの研究成果により、政府が新たに定めたCNS（中華民国国家標準）の規制に適した消しゴムを、いち早く市場へ供給することができました。



台湾子会社が取得したCNS認定書

日々重ねる研究

中央研究所では、お客様に「ぺんてるならではの」と喜んでいただけるような画期的な新製品を目指して研究開発を進めています。新たなものを生み出す研究には、スタート時には予測し得ないさまざまな技術的な壁が現れることもあります。そんな時には、自由にアイデアを出し合い、一つひとつ技術検証を行います。研究テーマに携わる人たちの意見が集まることで、個人では思いつかないアイデアが生まれ、課題解決への大きな一歩となります。これからも、どんなに大きな壁に突き当たっても途中であきらめることなく、アイデアを活かした課題解決を推進し研究を重ねていきます。

VOICE

昔からモノを集めたり、写真を撮ることが好きで、マーケティング部門に配属になってからはさらに拍車がかかって、アンテナに引っかかったものは意識的にアイデアストックしています。実際の製品化においては、お客様へのインタビューやアンケート調査などから生活行動や意識・認識の変化などのトレンドを捉え、検証を重ねて、お客様に喜ばれる製品づくりを目指しています。

▲修正具の「フレンチポップ」(左) マーケティング推進部 小平 玲菜
と画材の「ずこうクレヨン」(右)

営業の現場は、お客様に最も近いところにあります。作り手側の視点だけでは、なかなか気づかないような細やかな工夫を製品に施すことで、従来の製品がより使いやすくなったり、便利になったりすることもあります。そんな現場の声を届けることも、営業マンの大切な仕事です。

量販営業部 佐々木 祐輔

蛍光ペンの「ハンディライン・エス」▶

※4 REACH規制

欧州における化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限の制度です。

※5 ISO8124

玩具安全基準を定めるため、ISO規格として2010年に制定されました。

パートナー、社員とともに

適正利潤と冗費節約による 会社・従業員の繁栄

大切なビジネスパートナーの皆様と公正・透明で適正な取引を基本に、誠実で健全な企業運営に努めています。



ビジネスパートナーの皆様と力を合わせます

お客様の手に渡るまで

原材料から製品として完成しお客様の手に渡るまでには、多くの関係企業の協力が必要です。当社は、ビジネスパートナーの皆様と深い信頼を築き、共存共栄を目指し取り組んでいます。

お取引先様とのコミュニケーション

当社の製品は、代理店様や販売店様を通して、お客様へお届けしています。

これらのお取引先様と、より強固な関係を築き一体となって市場を創造するため、新製品発表会や店頭デモ販売、その他多くのイベントを定期的で開催しています。2011年度は、国内のお取引先様向けに、本社ビルにて「新製品発表会」を開催し、新製品に関する情報や販売方針を共有しました。

また、海外グループ会社では、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど各ブロックで、お取引先様向けに、当社の姿勢や取り組み、新製品の紹介や製品知識などに関する講習会を開催しており、信頼関係の強化に努めています。



各販売店様に合わせたブース展示(新製品発表会)

パリで行われた「Pentel Asia Meeting 2012」



協力企業様とのパートナーシップ

茨城工場では製品組立工程を委託している協力企業様を「幸和会」と称し、毎月、品質管理や工程管理についての勉強会を実施するほか、計画的に異業種の工場見学や外部セミナーなどに参加し、一体となって改善活動を推進しています。

この「幸和会」の由来ですが、創業者「堀江幸夫」の「品質」に対する思いを受け継ぐため「幸夫」の「幸」の一字と、お互いの調和と相互理解を深め成長することを目的に命名され、今年で16年目を迎えます。今後も当社と協力企業様が切磋琢磨し、共存共栄を目指し取り組んでいきます。



毎月開催される「幸和会」の勉強会

仕入れ先様との公正な取引

当社は原材料、部品、仕入製品などの購入について、市場の動向を敏感に捉えながら、適正な価格で公正な取引を行うことを基本姿勢としています。最近では海外との取引も増えており、全世界より良質の物をタイムリーに調達するために、サプライヤー様の製造現場まで足を運んでいます。今後、お客様に満足いただける製品づくりの下支えとして、公正かつ公平な関係を維持しながら努力を重ねていきます。

安全で、いきいきと働ける 職場環境をつくりま

働きやすい職場環境づくり

ワーク・ライフ・バランスの実現

当社ではワーク・ライフ・バランスに注目し、働く環境の整備を進めています。仕事と家庭を両立させるためには、所定労働時間の適正化はもちろん、部署や職種にとらわれず制度を活用できる環境づくりが大切です。イントラネットを通して、いつでも制度の概要を確認できるよう情報を共有するとともに、相談にも随時対応できる体制を整えています。産休・育休においては、上司や同僚の理解と協力を得て、対象者が取得しやすい環境が整っています。

定年再雇用制度の導入

2006年より定年退職者の再雇用制度を導入しています。定年後の生活の安定を図るとともに、長年当社で培った経験やスキルは技能の継承や後方支援などで活かされています。

定年退職者数と再雇用者数

年度	2009	2010	2011
定年退職者	19	17	23
再雇用者	5	4	4

障がい者雇用の現状

障がい者雇用を促進しており、2011年度の障がい者雇用率は1.91%と、法定雇用率（1.8%）をクリアしています。

自己申告制度

会社と社員の相互理解を深め、公平性、納得性のある処遇の実現と、将来の自己実現の一助となるよう、自己申告制度を実施しています。面談などを通じて、仕事内容、能力開発、配置・異動に関する社員の意見や希望が直接人事部門へ伝えられ、個々の適性などを表明する公式な機会としています。

労働安全衛生

社員の安全で働きやすい環境を確保するため、労働安全衛生に取り組んでいます。特に機械などを扱う製造現場での取り組みに重点を置き、安全衛生委員会を設置し、毎月工場巡回を実施しています。また最近では、安全衛生水準をさらに

高めるために、労働安全衛生リスクアセスメントやメンタルヘルスの取り組みも始めています。今後も同活動を推進し、発生事故ゼロを目指します。

QCサークル活動

工場部門を中心にQC（Quality Control = 品質管理）教育の実践の場として、1965年よりQCサークルによる改善提案活動を推進しています。3工場のサークル数は、草加工場5サークル、吉川工場16サークル、茨城工場36サークルの計57サークルとなっています。QCサークルの全国大会でも自動車や電機メーカーに混じって金賞を受賞しているほか、出場回数でも上位に名を連ねています。最近の活動では「熟練者の技能を若い世代にどう伝承していくか」「男性作業員が専従していた仕事を女性ができるように」などのテーマで成果を上げています。



QCサークル関東支部埼玉地区発表大会

VOICE

隔月で発行される社内報では、トップメッセージや部署紹介、海外版社の様子、社員の結婚式や出産の報告まで幅広く掲載しています。1962年に発行されてから、2011年には500号を突破しました。昔の情報を求めてやってくる社員も多く、ぺんてるの成長記録簿ともいえます。また、地域や部門間を越えた情報共有の場として、大切なコミュニケーションツールの役割も担っています。これからも楽しんで読んでもらえる社内報づくりを目指します。

総務人事部 橋本 奈央子
ボールペンの「スリッチ」▶



誠実、健全であるために



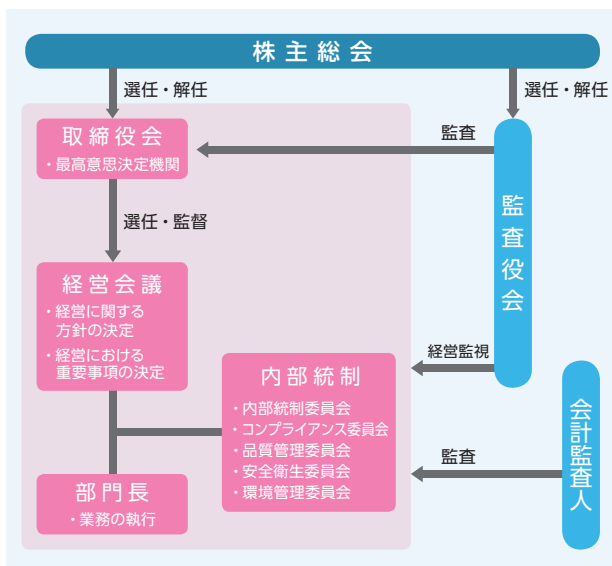
誠実、健全な企業運営に努めます

コーポレート・ガバナンス

当社では、誠実で健全な企業運営に努め、ステークホルダーの皆様への責任を果たすため、「内部統制の基本方針」をコーポレート・ガバナンスの基礎としています。

取締役会を最高意思決定機関として、定時および臨時に会議を開催し、グループ全体の経営に係る重要事項を審議、決定しています。監査体制は、2012年6月末現在、社外監査役2名を含む3名で監査役会を構成し、会計監査人やリスク管理部と連携し、業務上の不備や問題点の早期発見と是正、業務の改善に向けたアドバイスや勧告を行っています。

■ コーポレート・ガバナンス体系図



コンプライアンス

グローバルな事業展開を行う企業として、コンプライアンスは、最も重要な課題の一つと捉えています。単なる法令遵守に留まらず、企業倫理や道徳、社内ルール、国や地域の法令

や規制の厳守はもとより、正しい行動を実践するためのものと位置づけ、グループ全体での推進を図っています。

コンプライアンスマニュアル遵守事項

1. 基本的人権と労働者の権利の尊重
 - (1) 児童労働、強制労働の禁止
 - (2) 安全衛生と健康および福利厚生への配慮
 - (3) 結社の自由および団体交渉の権利
 - (4) 差別、懲罰の禁止
 - (5) 労働時間と賃金
2. 適正な商取引の実施
 - (1) 独占禁止法、下請法の遵守
 - (2) 不正競争の禁止
 - (3) 輸出入手続きと安全保障貿易管理
 - (4) 知的財産権関連
 - (5) 贈賄の禁止および贈答・接待等
3. 環境保全
4. 機密情報や個人情報の適切な管理
5. 適正な経理処理・税務申告
6. 利益相反行為等の禁止

主な社内規定等

- 労働関係法令**
- 安全保障貿易管理**
 - 輸出貿易の法令遵守に係る社内規定（コンプライアンス・プログラム）
 - CP手順書、ガイドライン、チェックリスト
 - 外国ユーザーリストetc.
- 環境綱領**
 - ISO14001 環境マネジメントシステム（基本理念、行動指針）
- 個人情報保護ポリシー**

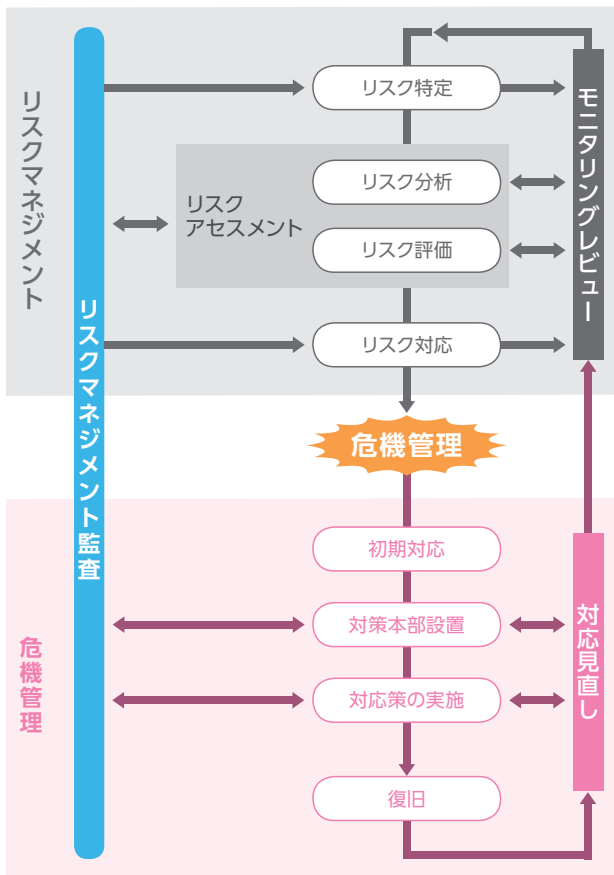
安全保障貿易管理

当社の技術や貨物が平和目的以外に使用されないように、「輸出貿易の法令遵守に係る社内規定」を定め、輸出部門での管理体制を整え、定期的に社員教育と監査を実施し、法令遵守とリスク管理に努めています。

リスクマネジメント

企業経営に重大な影響を及ぼすさまざまなリスクに対し、未然防止に努めるとともに、万一発生した場合、被害の最少化と迅速な復旧対応を図ることを経営の重要課題と考え、社長を本部長とした危機対策チームが編成されています。

■ リスクマネジメントのプロセス



知的財産の保護と活用

当社の知的財産は、中央研究所知的財産管理室が一元的に管理するとともに、研究・開発・製品の各テーマと連動した知財戦略を立案し、遂行しています。特許出願については、研究・開発の成果に応じた出願を実施するとともに、周辺保護の出願も行うことで類似製品の出現の阻止を図っています。また、他人の知的財産を尊重するという意図のもと、研究・開発の各ステップにおける他社権利の調査を行っています。ブランドを保護する商標は、世界100ヵ国以上で出願、なら

びに権利化しています。模倣品に対しては、研究部門をはじめ、営業部門や海外のグループ会社とも連携し、毅然とした姿勢で製品の保護と権利の保護を図っています。

BCP (事業継続計画) 策定

全社を挙げてBCP (Business Continuity Plan = 事業継続計画) に取り組み、万一の際のリスクを想定し改善を進めています。

2010年11月、厚生労働省や経済産業省のガイドラインを参考に「新型インフルエンザ対策マニュアル」を策定しました。新型インフルエンザ大流行時において、安全確保を最優先とした事業運営体制や、海外出向社員への感染予防の措置などを取り決めました。

また、コンピュータシステム災害対策として、バックアップデータ遠隔地定期保管の実施やデータの復旧作業の訓練を年に数回行っています。

国内3工場においては、危機となる状態を未然に防ぎ、緊急時の必要な対応・手順を示した危機管理マニュアルを作成し、万一の事態に備えています。2011年3月の東日本大震災により被災した茨城工場では、人的被害をゼロに抑えることができ、生産体制も比較的早期に復旧させることができましたが、原材料調達やITに関する問題点も明らかになりました。現在、顕在化された問題を一つずつ解決し、制度の向上に努めています。

VOICE

情報セキュリティの世界では常に新たな脅威が生まれており、円滑に仕事を続けるためには常に最新の情報セキュリティ対策を講じる必要があります。情報システム部では、コンピュータ安全規定を設定し、情報資産を過失、事故、災害、犯罪などから守る継続的な活動を行うとともに、社員へ向けたセキュリティ対策教育や情報システムの災害対策訓練を実施しています。これからも情報は会社の大切な資産であることを肝に銘じ、知識・能力を磨き、重要性和リスクに応じた適切な管理を行っていきます。

情報システム部 植西 隆明
ボールペンの「ピクーニャEX」▶



地域、社会とともに

相手の気持になって 行動する感謝と奉仕の精神

医療活動への貢献や清掃活動・イベントなどを通し、企業パートナーとして地域の取り組みに参加しています。



文具を通して
力になれることを考えます

事業を活かした社会貢献

乳がん撲滅キャンペーン

イギリスペンてるをはじめとした海外グループ会社では、乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝える乳がん撲滅キャンペーンである、BCC (Breast Cancer Care) に参加しています。軸色がピンク色の製品の売り上げの一部を、BCCに参加し寄付することで、乳がん撲滅への協力をしています。



2011年11月1日付の地元紙 (Swindon Advertiser) にペンてるのチャリティ活動が紹介されました

非営利団体との連携

非営利の知的障がい者団体であるデザート・アークは、常時約300人の障がいのある人たちに働く場を提供するとともに、社会復帰のサポートをしています。ペンてるオブアメリカでは、同団体と共同でeコマースサイトを立ち上げ、訓練を受けた障がい者の方々に梱包から出荷までの全作業を行う場を提供するとともに、売上の一部を還元し、社会参加への支援を行っています。



eコマースサイト
立ち上げスタッフ
(デザート・アークにて)



デザート・アークで働いている皆さん

エコキャップ運動の応援

eキャップ絵の具 (ラミネートチューブ) の製造・販売を通じて、世界の子どもたちへワクチンを届けるエコキャップ運動を応援しています。eキャップの材料は、エコキャップ運動で集められたペットボトル・キャップの再生材であり、この材料費の一部が、世界の子どもたちへワクチンを届けるために使われます。



地域の皆様と共に 歩める企業を目指します

納涼祭

茨城工場、吉川工場では、毎年8月に、地域社会との親睦を深めることを目的に、社員が企画から運営までを行う納涼祭を開催しています。2011年度は、茨城では約3,000名、吉川では約1,000名の地域の方々にご参加いただきました。

この納涼祭は、やぐらやステージといった会場の設営、出店の看板づくりから食材調理、さらに交通整理や分別ゴミ箱の設置なども、社員が一丸となって取り組むアットホームなお祭りとなっています。

また、お子様参加のゲームやくじ引きなどイベントも満載で、来場される多くの方々楽しんでいただくと同時に地域の方々との交流にも一役買っています。



工場周辺のクリーン活動

国内3工場では、年に数回、周辺の道路や近隣の公園などの清掃活動を実施しています。日ごろの感謝の気持ちを込めて工場の全社員が参加し、地域に少しでもお役に立てるよう努めています。



海外でのイベント

ユーロぺンてる（フランス）では、毎年6月に社員とその家族や近隣住民、お取引先様を招待し、ぺんてるユーロ工場前広場にてメシュイ*を開催しています。当日は、社員の手作りのゲームや出し物もたくさん催され、食事をしながら交流を深めています。



*メシュイ：アラブ系伝統行事がフランスに伝わったもので、地域や家族など、大勢で子羊の丸焼きやバーベキューを楽しむ野外行事です。

VOICE

吉川工場は、シャープペンシルと替芯の研究開発（設計）と生産をしています。私たちの工場では、毎年8月上旬に納涼祭を開催し、普段お世話になっている地域の皆様への感謝の思いを込めて社員総出で準備を行います。毎年、小さなお子様からご年配の方まで、多くの方々にご来場いただき、ご好評をいただいています。また、社員も地域の皆様と笑顔で触れ合える時間を本当に嬉しく感じています。



▲ シャープペンシルの「グラフギア1000」、替芯の「シュタイン」

吉川工場 中央研究所
横山 昭人(左)
坂田 祖(右)

次世代のために

正しい人格と愛される人柄の培養

次世代へ続く文化を育成します

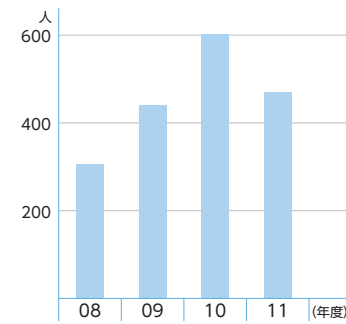


児童画展や写生会、課外授業への協力などを通して、社員一人ひとりが地域や社会から信頼され、次世代の役に立てよう努めています。

本社・工場見学の実施

茨城工場では、近隣の小中学生をはじめとして、地域社会、お取引先様などに対して、工場見学を実施しています。筆記具や画材が生産されている現場を間近で見ることで、ものづくりの姿勢や環境保全への取り組みを知っていただいています。2011年度は、合計30件、470名の見学がありました。また、本社では、毎年、中学校の修学旅行の課外授業として、実際に仕事現場を見学していただき、社史や事業概要の説明を行うとともに、学生からの質問に答え、主体的に学んでいただく機会を提供しています。

■ 茨城工場見学者 年度別延人数



小学生工場見学 (茨城工場)

中学生・高校生の職場体験

地域貢献の一環として、中学生の職場体験や高校生のインターンシップを受け入れています。働くことを通じて、勤労意欲や職業観を身につけていただけるよう、次世代の人材育成にも努めています。



中学生職場体験 (吉川工場)

写生会、絵画教室

毎年、全国各地で開催される写生会に協賛をしています。2011年度は50件を超える写生会に協賛・協力しました。また、海外でも絵画教室を開催するなど、積極的に活動を展開しています。

山下公園ファミリー写生大会

2012年4月29日、当社が協賛する第29回山下公園ファミリー写生大会(横浜市PTA連絡協議会主催)が開催されました。今回は、ご家族での参加を含め約25,000名の参加があり、大会参加者による展覧会にも、3,000点を超える応募がありました。



世界児童画展

当社は、1970年より公益財団法人 美育文化協会主催の「世界児童画展」に協賛しています。同展は、大阪万博博覧会会場にて第1回が開催され、2011年に第42回を迎えました。世界41の国と地域から17万点(国内10万点、海外7万点)を超える作品の応募がある、世界最大規模の児童画コンクールです。



国内応募作品：文部科学大臣奨励賞



海外応募作品：外務大臣賞

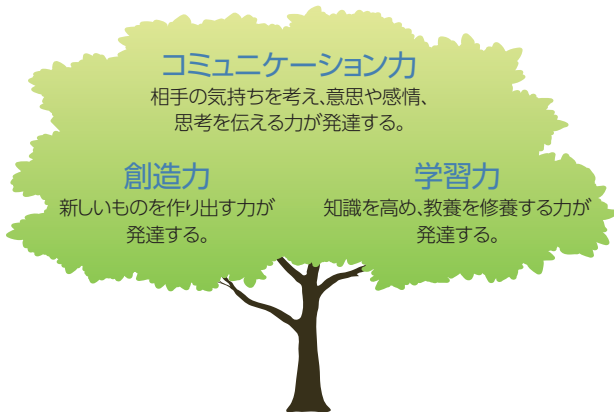
書育への取り組み

当社は、日本筆記具工業会の推進する「書育」に取り組んでいます。

書育とは、携帯電話やパソコンの普及により筆記具を使って書くという行為が少なくなることで起きるといわれる、日本語力の低下やコミュニケーション能力の不足、脳の働きの低下などを防ぎ、「書く」ことの大切さをより多くの方々に知っていただき、そのメリットを感じていただけるよう、広く社会に貢献する活動です。

書育で育まれる力を楽しんで体験していただくために、ホームページに関連コンテンツを掲載するなど、積極的に普及に努めています。

■「書く」ことによって生まれる3つの力



<http://www.jwima.org/shoiku/>

関連コンテンツ

【コミュニケーション力】

筆ペンの選び方から、持ち方や筆文字のバランスの取り方などといった文字を書く際のポイントだけでなく、筆ペンでのイラストの描き方など、幅広くご紹介しています。今すぐ役に立つ楽しいノウハウで、「書く」コミュニケーションを応援します。



<http://www.pentel.co.jp/fude/>

【創造力】

ぺんてるのマスコットキャラクターである「ペペ」と「ルル」が、くれよんやえのぐなど、ぺんてるの商品を紹介します。くれよんの製造工程といった、子どもたちから多く寄せられる疑問にもわかりやすくお答えするなど、子どもたちが楽しく学べるコンテンツです。



<http://www.pentel.co.jp/kids/>

リトルリーグへの協賛

公益財団法人 日本リトルリーグ野球協会に対し、製品の協賛を通じ、全国のリトルリーグで活躍する子どもたちの応援をしています。全国規模で開催されるさまざまなリトルリーグの大会に参加する子どもたちには参加賞を、大会運営関係者には事務用ペンを協賛しています。



VOICE

台湾ぺんてるでは、親子絵画教室を開催しています。このイベントは、文具店店頭やホームページからどなたでも応募いただけるもので、布地に描けるくれよんを使って自分だけのオリジナル買い物袋などを仕上げます。毎年、多くの親子に喜



んでいた
だいてい
ます。

海外販売促進部 熊田 有希子
シャープペンシルの「ケリー」▶

環境保全への取り組み

社業を通じて 国家・社会への貢献



原材料調達から製造、廃棄までのライフサイクルアセスメントにおけるCO₂排出量削減や生物多様性の保全に取り組み、地球温暖化防止へ貢献しています。

全社員で、 明日の地球環境を考えます

環境綱領

当社では、地球社会の良き企業市民として企業の社会的責任を果たすため、1996年に環境綱領を制定し、1997年に環境管理・推進の組織を立ち上げました。主に環境への負荷が大きい工場での活動を推進しており、2003年より全社環境管理委員会を組織し、全社規模での取り組みとしています。

環境綱領 (1996年制定)

● 基本理念

ぺんてるは地域社会のよき企業市民として、企業の社会的責任の重要性を認識し、地球環境保護と環境汚染防止を企業経営の重要な理念として、全社員の環境意識を高め、社会運営の全ての中で人と環境に調和した企業活動を推進します。

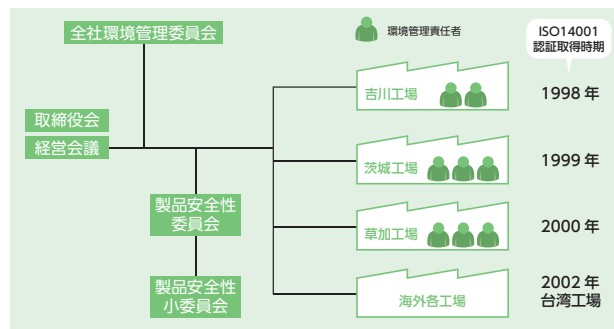
● 行動指針

1. 企業活動全般にわたり、設計開発から廃棄にいたる全ての段階において環境保全を考慮した製品とサービスを開発し、提供します。
2. 環境に関連する国内外の関連法及び協定、約束を遵守し、継続的環境の保全と向上を図ります。
3. 海外事業展開に際しては、相手国の環境保全の確保に努めます。
4. 新規事業の計画に当たっては、継続的なアセスメントを実施し、環境保全に努めます。
5. 社員に対しては、環境保全に対する情報の提供と教育を行うとともに、顧客、行政、地域社会に対しても環境保全のために必要な情報を提供します。
6. この方針を全社員、全組織に周知徹底するとともに、環境保全に関する知識と技術の向上に努め、全社一丸となった環境管理活動を推進します。

環境マネジメント体制

環境綱領の基本理念をもとに、工場やオフィスにおいて、環境経営および環境保全の取り組み強化を目的として、環境マネジメント体制の整備とシステムの構築・運用を行っています。ISO14001※1を国内3工場では1998年から順次、海外では台湾において取得し、継続的な改善を実施しています。

■ 環境マネジメント体制



環境教育の推進

全社員を対象に、環境に関する基礎知識や環境保全への意識向上のための環境教育を行っています。さらに環境推進のリーダーへは、環境に係る法規制や専門技術、技能教育、内部環境監査員認定教育を実施しています。

内部環境監査と改善活動

各工場の環境管理責任者を中心に、内部環境監査員がISO14001や環境マネジメントシステムに関する適合性をチェックするとともに、各部署からの提案を吸い上げ改善の機会としています。また、QC (Quality Control = 品質管理) サークル活動を通して環境改善提案や壁新聞コンクールなどを行い、社員一人ひとりが参加するボトムアップ活動が実施されています。

※1 ISO14001

企業活動、製品およびサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を継続的に実施するシステム(環境マネジメントシステム)を構築するために要求される規格です。

※2 RoHS指令

電子・電気機器における特定有害物質(鉛、水銀など6物質)の使用制限についての欧州連合(EU)による指令です。

※3 REACH規制

欧州における化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限の制度です。

※4 GHS

2003年7月に「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」(The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals : GHS) が国連勧告として出されました。GHSは化学品の危

遵法管理

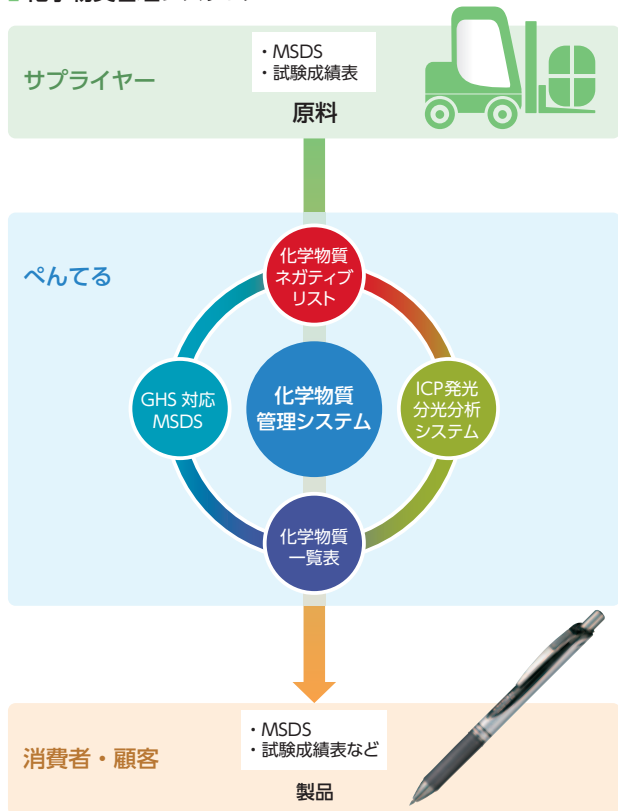
化学物質に関するさまざまな規制を確実に遵守するために、化学物質の品質や安全性を確保する管理体制を確立するとともに、廃棄物排出の適正管理に努めています。

化学物質の適正管理

RoHS指令^{*2} やREACH規制^{*3} など化学物質に関する規制を確実に遵守するために、個々の製品や原材料に使用されている化学物質の安全性についてデータベース化し、化学物質管理システムの構築を進めています。

2011年度は、「GHS^{*4} 対応MSDSシステム」を導入し、「化学物質ネガティブリスト」および「化学物質一覧表」と照らし合わせ、サプライヤーから提出された原材料の化学物質含有量の調査・把握およびICP発光分光分析の必要性の可否が迅速に行えるようになりました。

化学物質管理システム



PRTR法対象化学物質の排出量管理

PRTR^{*5} 法対象の化学物質に対して排出量データ収集システムを構築し、安全性の高い化学物質へ変えるなど運用管理を行っています。2011年度はPRTR法対象化学物質を7種から4種まで削減することができました。

廃棄物の適正処理

廃棄物の処理については、法律で定められた管理の遵守は当然のこととして、「廃棄物・ゴミ分別一覧表」を策定し、より適切な処理をすべく、全社員への徹底を図っています。

PCBの適正保管・処理

PCB（ポリ塩化ビフェニール）について、各事業所で適正に保管、管理を行っています。PCB廃棄物は、処理委託先である日本環境安全事業株式会社に登録を済ませ、今年に入り、一部の事業所から順次廃棄処理が始まっています。

VOICE

2011年から、夏の新たな節電対策として、建屋に隣接する窓際にゴーヤを利用した緑のカーテンを作りました。無事にゴーヤも実り、食堂で「ゴーヤ入り夏野菜カレー」や「ゴーヤチャンプルー」などとして提供され、社員に大変好評でした。また、遮光ネットや屋根への散水も行いました。このように小さなこと



からでも、社員一人ひとりが知恵を出し合い、改善を試みます。



茨城工場 画材製造課 上野 裕子
画材の「エフ水彩」▶

除有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かりやすく表示し、その結果をラベルやMSDS (Material Safety Data Sheet: 化学物質等安全データシート) に反映させ、災害防止および人の健康や環境の保護に役立てようとするものです。

※5 PRTR

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register: 化学物質排出移動量届出制度) は、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外

に運び出されたかというデータを把握、集計し、公表する仕組みです。日本では1999年、「特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律」(化管法)により制度化されました。



地球温暖化防止と生物多様性を 守るために行動します

社外認証制度の取得

ISO14001認証取得をはじめ、地球に優しい企業認定制度やエコ事業所登録（以上、茨城県）、エコ通勤優良事業所認定制度（公共交通利用推進等マネジメント協議会）など、公共団体や第三者機関の認証制度を積極的に活用し、当社の環境マネジメントシステムの資質を客観的に評価し、システムの有効性向上に努めています。



エコ事業所登録証



エコ通勤優良事業所認定証



エコチャレンジ感謝状

ゼロエミッション

当社ではゼロエミッション※1を目指し、徹底した無駄の排除による廃棄物の削減とリサイクルの推進に取り組んでいます。

2010年度は国内3工場合計でリサイクル率99%でした。その原因は廃棄物処理費用の抑制と適正処理を満たすため、一部リサイクルから埋め立てへ変更せざるを得ない廃棄物もあったためでした。茨城工場では、埋め立て処理をしていた物質を使用している製品の素材変更などを実施し、2011年度はリサイクル率100%とゼロエミッションを達成し、茨城県リサイクル優良事業所の認定を受けました。

また、各事業所の目標に合わせた環境スローガンを制定し、省資源、省エネルギーなどの環境問題に対し、全社員で意欲的に取り組んでいます。



茨城県リサイクル優良事業所認定証

※1 ゼロエミッション

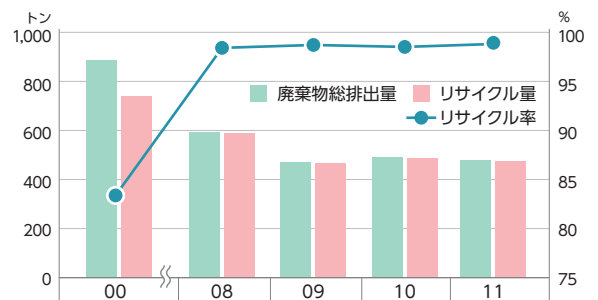
環境を汚染することのない生産工程を用いたり、異業種産業（企業）の連携によって廃棄物を再利用したりするこ

とで、社会全体での廃棄物排出がゼロになるシステムを構築する、またはその構築を目指すことです。

ゼロエミッションの取り組み

- ・廃棄物の分別収集及びそれによる有価物化
- ・プラスチック廃棄物の高炉原料化、セメント材料へのリサイクル
- ・生ゴミのコンポスト処理
- ・廃蛍光管のリサイクル

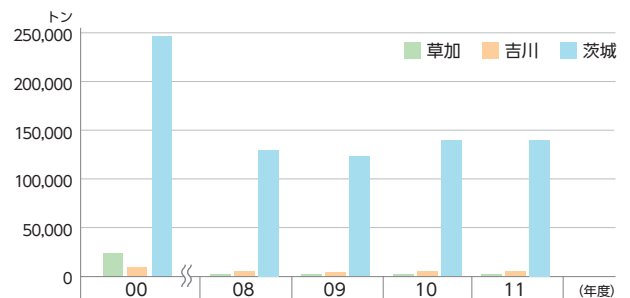
3工場合計廃棄物量とリサイクル量・率の推移



水資源使用量の削減

茨城工場では、水の使用量、排水量を継続的に管理しています。製造設備の冷却水の循環利用や節水などの取り組みにより、使用量の削減に努めています。

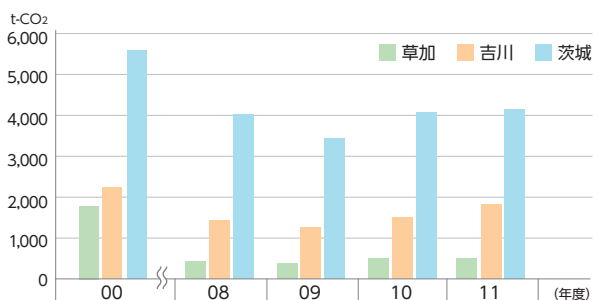
工場別水使用量推移



CO₂排出量の低減

当社では電力をはじめとしたエネルギー消費の削減や、再生樹脂の活用、廃棄物削減などによりCO₂排出量抑制に取り組んでいます。また国内3工場では、毎年CO₂排出量削減目標を定め、全社一丸となってCO₂排出量削減のための取り組みを進めています。

工場別のCO₂排出量推移



※東京電力2011年度炭素クレジット反映後のCO₂排出原単位 (0.463kg-CO₂/kWh) に合わせて、過去の数値もさかのぼって修正しました。

省エネルギーへの取り組み

2010年の省エネ法改正により当社は特定事業者、茨城工場は第二種エネルギー管理指定工場※2に指定されました。

国内3工場では、消費電力の少ない製造設備の調達・切替、製造工程の効率化による消費電力の削減に取り組んでいます。

吉川工場では、蒸気配管の修繕、替芯乾燥機の改善に取り組み、茨城工場では、電力消費量の約30%を占めるコンプレッサー（空気圧縮機）の台数制御やモーターのインバータ化、吐出圧力設定を下げることで消費電力削減を進めています。

また、管理体制としては、リアルタイムでの電力消費監視を行い、工場全体の電力消費計画値を超過しそうな場合は、使用抑制措置を行っています。

流通過程や消費段階での廃棄物低減

製品の出荷にあたり、さまざまな梱包材を使用しますが、流通段階を終えるとほとんどが廃棄されます。これらの梱包材を従来のダンボール箱から再生紙の折箱へ切り替えたり、

折り畳みコンテナを使用することにより、廃棄物量の低減を進めています。

また、製品パッケージについても、お客様が処分に困らないようすべてリサイクル材を使用しています。表示が見やすいことに加え、軽量化、少量化を進めるため、製品の開発段階より専用設計を行っています。



ダンボール箱と再生紙の折箱

日常の中での環境保全活動

オフィスでは、クールビズ、ウォームビズの実施による空調機設定温度の適正化、両面コピーやIT活用による紙使用量の削減、消灯活動などを行っています。

国内3工場では、日常的に行えるエコロジーな活動リストが掲載された「グリーン活動カード」を全社員が携帯しており、一人ひとりが日常的な業務の中でも、省資源・省エネルギー活動を実践しています。

VOICE

生産技術室の仕事は、品質向上、インク検査、工程改善・不具合解析など、安全で信頼できる製品をお届けするための大切な下支えです。その中でも、重要な業務として環境に優しい資材への代替があり、より安全で環境に配慮した製品づくりに日々奔走しています。『役割技術を磨き、お客様がお使いになって喜んで頂く良い商品を提供しましょう』という茨城工場の品質スローガンを遂行する上で、最前線の部隊として活動しています。



茨城工場 生産技術室 西條 毅
サインペン ▶

※2 第二種エネルギー管理指定工場

年度のエネルギー使用量が原油換算で 1,500kl以上3,000kl未満の工場・事業場は、「第二種エネルギー管理指定工場」に指定されます。



事業活動と環境負荷の関わり

当社の事業活動のプロセスにおいて、原材料やエネルギー、水といった地球資源を利用する（インプット）と同時に、CO₂や廃棄物などが排出されています（アウトプット）。

当社では、事業活動にともなう環境への影響を正しく把握し、製品の開発から生産、輸送、消費、リサイクルされるまでの全事業活動を通して、限りある地球資源を大切に使用し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

インプット

エネルギー

燃料および熱	13,614 GJ
揮発油	124 GJ
灯油	0 GJ
A重油	5,853 GJ
石油ガス (LPG)	7,637 GJ
天然ガス (LNG)	0 GJ
都市ガス	0 GJ

電力

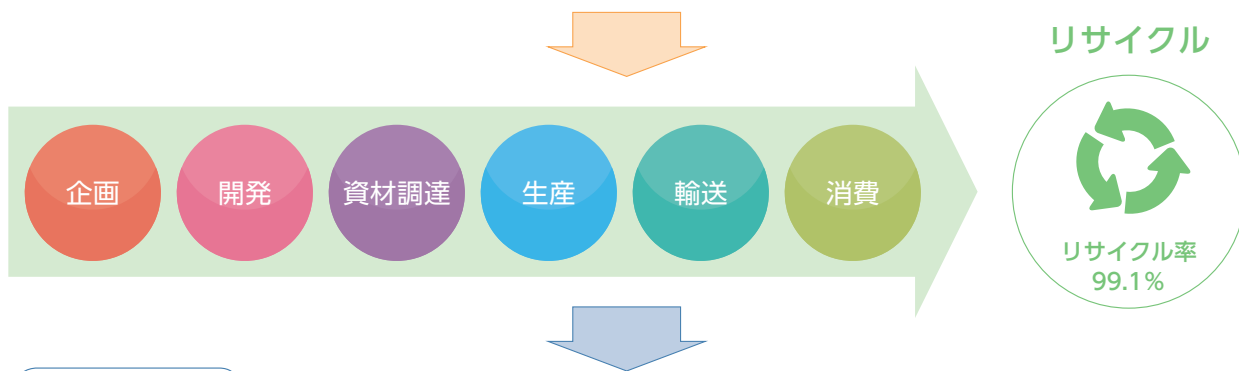
電力	113,352 GJ
昼間電力	78,684GJ
夜間電力	34,668GJ

原材料

包装材使用量	657 ton
化学物質投入量 (PRTR届出対象物質)	87 ton

水資源

上水道	7,927 ton
地下水	140,110 ton



アウトプット

温室効果ガス (GHG) : 産業廃棄物処理時のGHGも含む

総排出量	6,489 t-CO ₂
調整後排出量	6,478 t-CO ₂

廃棄物

産業廃棄物量	484 ton
この内、埋め立て処理	4 ton

生物多様性の保全

事業活動による直接的・間接的な生物多様性への影響を認識し、工場からの排水が生態系に影響を与えていないかどうかを常に把握し、評価しています。

工場排水によるホタル育成

茨城工場では、1964年の稼働開始以来、工場排水が流入する霞ヶ浦の水環境保全のための工場排水浄化に取り組み、浄化した工場排水による魚類の飼育を続けてきました。2008年、水環境保全の進化を目指して排水浄化設備を更新し、工場内に設置したビオトープにてホタルの育成に取り組みました。2009年からは、毎年羽化し初夏の夜空を舞っています。茨城工場の排水が清流に棲むホタルが生息できるまで浄化されたことを証明しています。



茨城工場内のビオトープを舞うホタル



茨城工場内で羽化したホタル

最終放流槽でのアユの育成

ホタルの飼育に引き続き、工場排水の最終放流槽のコケ付着を防止するため、2011年よりアユの飼育に取り組みました。同年5月上旬に稚魚300尾を最終放流槽に放し、8月には20cmを超える大きさにまで成長しました。アユが生息できる水質の目安としてBOD※1 平均値が3mg/l以下という指標がありますが、工場排水は清流と呼べるレベルであることが十分証明できました。



※1 BOD

Biochemical Oxygen Demand (生物化学的酸素要求量) は、微生物が水中の有機物を酸化分解するときに必要な酸素の量で、主に河川の汚濁指標として使用されます。

※2 世界自然保護基金 (WWF)

絶滅の危機にある野生生物の保護や地球全体の自然環境保全に取り組んでいる団体。ぺんてるはWWFマークをつけたぺんてるくれよんなどの製品を通じて応援・協賛し、対象商品の売上の一部を自然保護活動に還元しています。

環境教育プログラム

世界自然保護基金 (WWF) ※2 の協力のもと、小学生を対象にした環境教育プログラムに取り組んでいます。地球温暖化をテーマにした教材「ホッキョクグマが泣いている…」を作成し、申し込みをいただいた小学校へ無料配布しています。ホッキョクグマに焦点をあて、地球温暖化の深刻さと、それを防ぐ方法を考え実践していくという構成を特徴としており、5時間にわたって展開できるようになっています。



総合学習教材「ホッキョクグマが泣いている…」



環境教育プログラムを使用した授業

VOICE







草加工場は、当社が創業して初めて作った工場です。稼働した当初は、周囲はほとんどが田畑で、その後工場地域となりましたが、近年はマンションなどが立ち並び住宅化が進んでいます。そのような立地条件から、地域社会との共存を図るため、草加工場は生産工場から研究・設計を中心とした事業所へと転換を遂げました。

草加工場長 榎原 博
ぺんてる筆 ▶

ぺんてるのあゆみ

より便利な、より上質な「伝達、表現」を目指し、時代とともに発展していきます。

会社のあゆみ

1940/50	1960	1970
<p>1946年 (昭和21年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本文具株式会社設立 ・草加工場設立  <p>1953年 (昭和23年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外市場への進出 (輸出開始) 	<p>1963年 (昭和38年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川工場設立 <p>1964年 (昭和39年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港、シカゴに支店設置 ・茨城工場設立  <p>1966年 (昭和41年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出貢献により、内閣総理大臣賞を受賞 ・海外工場ユーロぺんてる設立 	<p>1970年 (昭和45年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本万国博に国際児童画館に出演参加  <p>1971年 (昭和46年) B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社名を「ぺんてる株式会社」とする <p>1976年 (昭和51年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社を挙げて品質管理を推進した結果、「デミング賞実施賞」を受賞 
		<p>1978年 (昭和53年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理の生みの親、デミング博士来社 (工場視察)  <p>1979年 (昭和54年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進国首脳会議 (東京サミット) で、ローリングライターが公式筆記具として採用される 

製品のあゆみ

1950	1960	1970	1980
<p>1955年 (昭和30年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぺんてるくれよん」を発売 	<p>1960年 (昭和35年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界初のノックシャープペンシル「ぺんてる鉛筆」、油性ペン「ぺんてるペン」を発売 	<p>1963年 (昭和38年) A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぺんてるサインペン」を発売  <p>1972年 (昭和47年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水性ボールペン「ボールぺんてる」を発売 	<p>1975年 (昭和50年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぺんてる筆」を発売  <p>1983年 (昭和58年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぺんてる修正液」を発売 

TOPICS

1950	1960	1970	1980
------	------	------	------

A 1963年 (昭和38年)

宇宙へ旅立ったサインペン
～現在も愛され続ける超ロングセラーアイテム～

発売当初、日本での売上はいまひとつだった「サインペン」。そこで、米国の見本市でサンプルを配ると、そのうちの1本がジョンソン大統領の手に渡ること。大統領は書き味を大いに気に入り、その話が新聞や雑誌で紹介され、たちまち大ヒット！さらに、NASAの公式スペースペンとして採用され、1966年宇宙を旅して還ってきました。その後日本でも話題となり、通算20億本を超えるロングセラーとなりました。



当時のポスター



宇宙を旅したサインペン



1964年10月5日付の米国新聞で紹介される

B 1971年 (昭和46年)

「ぺんてる」の社名の由来とは？

ぺんてるという社名は、画材専門メーカーとして創業したことからつけられたものです。ペインディング (えのぐ・くれよん・パスなどで絵を描くこと) と、パステル (固形描画材) を合わせてぺんてるです。また、筆記具の総称のペンと、「伝える・表現する」のテル (Tell) の意味も含む、まさにぺんてるの製品や事業内容を象徴する社名といえます。



ぺんてるぼうや

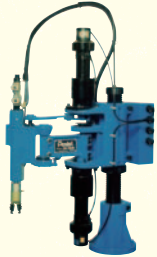


◀ マスコットキャラクターのペペとルル

1980

1980年 (昭和55年)

- ・小型精密組立ロボット <PUHA>を開発、ロボット業界進出



1986年 (昭和61年)

- ・日本初の国際文具事務用品見本市へ出展

1990

1992年 (平成4年)

- ・WWF (世界自然保護基金) 活動を支援開始

1994年 (平成6年)

- ・パリ国際見本市で、トラディオ・プラマンが金賞を受賞



1995年 (平成7年)

- ・文具業界初、ISO9001認証取得 (茨城・吉川工場)



2000

2000年 (平成12年)

- ・国内3工場において、ISO14001の取得完了

2005年 (平成17年)

- ・「Spirit of Wonder」を発信

2006年 (平成18年)

- ・創業60周年記念行事で社員一同で描いた「世界で一番長い絵」がギネスに正式認定



2009年 (平成21年)

- ・タイ工場設立、海外工場7拠点となる



2010

2010年 (平成22年)

- ・ぺんてるロシア設立、海外販社21社となる

2011年 (平成23年) D

- ・創業者堀江幸夫 生誕100年「現代大家作品展」開催



1990

1989年 (平成元年)

- ・中性ボールペン「ハイブリッド」を発売



1994年 (平成6年)

- ・ホワイトボードマーカー「ノックル」を発売



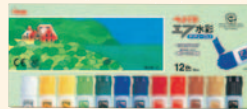
1996年 (平成8年) C

- ・「ハイブリッド」ミルキーシリーズを発売

2000

2000年 (平成12年)

- ・日本初エコマーク付きえのぐチューブ「エフ水彩ポリチューブ入り」を発売



2003年 (平成15年)

- ・水性ゲルインクボールペン「エナージェル」を発売



2010

2010年 (平成22年)

- ・低粘度インク油性ボールペン「ビクローニャ」を発売
- ・替芯「シュタイン」を発売



1990

C 1996年 (平成8年)

ミルキー現象 ~1年間で1億本を超える大ヒット!~

1996年、パステルカラーのボールペン「ハイブリッド・ミルキー」が発売されました。写真やブリクラ、黒い紙にも書けることが特徴で、発売直後から女子中高生の間で話題となりました。爆発的な人気となったミルキーは、全国の文具店で入荷する先から売れ、文具で初めて“品切れお詫びポスター”が貼り出されるほどでした。当時の女子中高生の間では全7色持っていることが彼女たちのステータスでした。



2000

D 2011年 (平成23年)

「堀江幸夫 生誕100年 現代大家作品展」開催

2011年、本社にて「堀江幸夫 生誕100年 現代大家作品展」を開催しました。本展覧会では、創業者である故人が生前収集した絵画の中から選りすぐりの数十点を展示しました。その多くは堀江幸夫が当社製品の素晴らしさを世の中に伝えるため、国内外の巨匠に画材や筆記具を贈り、描いてもらったオリジナル作品です。中には20世紀を代表する画家フェルナン・レジェや山下清の作品もあり、多くのお客様にご覧いただきました。



ペンテル株式会社

〒103-8538 東京中央区日本橋小網町7-2

TEL 03-3667-3333(代表)

<http://www.pentel.co.jp>

お問い合わせ窓口：

コーポレートレポート編集委員会 事務局

TEL 03-5695-7268



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示す FSC 森林認証紙を使用。



印刷インクは、大気汚染原因となる VOC（揮発性有機化合物）の発生を減らすため、植物油インクを使用。

